## 第7号様式(第5条関係) (第1面) (用紙 日本産業規格A4縦長型) (総括票)

結果報告書(特定大規模事業者用)

2022 年 7 月 27 日

神奈川県知事殿

郵便番号 220 - 8625

所 神奈川県横浜市西区高島1丁目2番8号

住

group. jp

京浜急行電鉄株式会社 氏 取締役社長 川俣 幸宏

神奈川県地球温暖化対策推進条例第15条の規定により、次のとおり提出します。

### 1 事業者の名称等

名称	音の氏名又は 及び法人にあっ 代表者の氏名	京浜急行電鉄株式会社 取締役社長 川俣 幸宏									
事業者の住所又は 主たる事務所の所在 地 神奈川県横浜市西区高島1丁目2番8号										計画対象	
			こりの原油換 ・ ・ は ・ ・ 神奈川県				7, 716	k1			
					条第1号該当6		原油換算 エネルギー	うち	2, 669	k1	0
	大規模事業者の				こりの原油換算 業者(規則第		使用量の 合計量			k1	
区分		該当の事		19,11	>K II (//II/(1/))			うち		k1	
				以上使用す	る事業者(規	則第2条第				台	
		3 芳該自	3号該当の事業者)				台数	うち		台	
主たる事業の業種	大 分 類 中 分 類	□ B 漁業	C 鉱業,採石業,砂利採取業       □ M 宿泊業,飲食サービス業         D 建設業       □ N 生活関連サービス業,娯楽業								
連	絡 先	F A X 看	号 045 番 号 045	路室 計ī - 225 - 225 . obara_qī	画担当 - 9242 - 9395 7b@keikyu-gro	oup. jp					
※受付欄			※ 特 記 欄			<u>社名:</u> <u>部署名</u> <u>担当者</u> 電話番 電子メ	作成を委託し 株式会社京会 : PM事業本音 名: 宮崎 - D 号: 045-307 ールアドレス chi, miyazak	タビル B PM 二 <u>通</u> -3801 く:	<u>マネジメン</u> <u>(第1部</u> -		

第2面) 京浜急行電鉄株式会社

(第2面) 2<u>計画期間</u>

2019 年度 ~ 2021 年度

3 計画期間中のエネルギー起源二酸化炭素の排出の状況及び排出量の削減の目標(規則第2条第1号又は第2号該当の事業者)\_\_\_\_\_

つ事業者)														
	基準年度	,	2018	年度	٠.									
県内に設置している全		( 基準排出	年度~ 量の合計量	計画の知	年度の	排出	2年度合計量	目の排	出量の	3 年 合計		の排	出量	ţΦ
ての工場等 におけるエ ネルギー起	年度ごとの	(基) 6,7 (調) 6,7	±(`() <sub>-</sub>	(基) 6,4	160	CO <sub>2</sub>	(基)	5, 340 5, 370	tCO <sub>2</sub>	(基)	5,	140 160	tCO <sub>2</sub>	2
N 2 11 H	排出量の推 移	(10.37	の排出量の			量の	(10 4)	した最		削		減		率
状況等		(基)	tCO <sub>2</sub>	(基) (調)	t	CO <sub>2</sub>		6, 673 6, 702	tCO <sub>2</sub>	(基) (調)		. 74 . 78	%	
県内に設置 している全	原単位の指 標の種類			排出量原										
ての工場等 における排	年度ごとの 排出量原単 位の推移	基準年度( 単位	の排出量原	計画の初空 量原単位	年度の	排出	単位	目の排	出量原	単位		の排	出量	[原
出量原単位によるエネ		(基) (調)		(基) (調)			(基) (調)			(基) (調)				
ルギー起源 二酸化炭素 の排出の状		単位	の排出量原	単位	の排出	量原	の排出は				単位	削	減	率
況等		(基)		(基) (調)			(基) (調)			(基) (調)			%	
計画期間内にギー起源二酸出の状況に関	.おけるエネル 後化炭素の排	最終年度の6 <削減目標6 ・2019年度1 成果が202 (新型コー 削減効り ・ホテル・律 エネルギー	の達排では、 の達成出 の では、	> 明のLED化と: 年で現れ、肖 感染症により は困難) 業施設におい 少した。	空調設( 刺減効果 ) 時間短 いて新型	備整備。 是を積み 豆縮等の	等の、エ ×増した。 )通常と昇 ⁻ウィルフ	ネルギー よなる営 、感染症	-使用量削 業があっ による来	削減に たこる 場者数	とから、		D	

		基準排出量の	の合計量	計画の初年 量の合計量	度の排出	2年度目の 合計量	排出量の	3 年度 合計量	目の排	出量の
	年度ごとの 排出量の推	(基) (調)	tCO <sub>2</sub>	(基) (調)	$tCO_2$	(基) (調)	tCO <sub>2</sub>	(基) (調)		tCO <sub>2</sub>
設置してい	移山里の推	4 年度目のi 合計量	排出量の	5年度目の 合計量	排出量の	目標としたの排出量の	上最終年度 合計量	削	減	率
る全ての工 場等におけ		(基) (調)	tCO <sub>2</sub>	(基) (調)	tCO <sub>2</sub>	(基) (調)	tCO <sub>2</sub>	(基) (調)		%
るエネルギー起源二		原単位の指	標の種類			排出量原單	単位の単位			
酸化炭素の排出の状況		基準年度の 単位	非出量原	計画の初年 量原単位	度の排出	2年度目の 単位	)排出量原	3 年度 単位	目の排	出量原
等	1 12	(基)		(基)		(基)		(基)		
	排出量原単			(調)		(調)		(調)		
	位の推移	4 年度目の 単位	非出量原	5 年度目の 単位	排出量原	目標としたの排出量原	≿最終年度 単位	原 単	位 削	減率
		(基) (調)		(基)		(基) (調)		(基) (調)		%

4 計画期間□	中のエネルギー	-起源二酸化	2炭素の排出	1の状況及で	が排出量の削	引減の目標(ラ	規則第2条第	第3号該	当の事	<b>事業者</b>	1)
	# * + +			年度							
県内で使用	基準年度	(	年度~	年月	度)						
している全 ての対象自 動車のエネ		基準排出量	との合計量	計画の初 <sup>4</sup> 量の合計量		2年度目( 合計量	の排出量の	3年度 合計量	目の担	非出量	主の
ルギー起源	年度ごとの		tCO <sub>2</sub>		tCO <sub>2</sub>		tCO <sub>2</sub>			tC(	$O_2$
一酸化炭素 の排出の状 況等	排出量の推移	4 年度目の 合計量	排出量の	5年度目の 合計量	の排出量の	目標としたの排出量の	た最終年度 )合計量	削	減		率
171 47			tCO <sub>2</sub>		tCO <sub>2</sub>		tCO <sub>2</sub>			%	
している全	原単位の指 標の種類			排出量原	単位の単位						
ての対象自動車の排出		基準年度の 単位	排出量原	計画の初 <sup>4</sup> 量原単位	<b>手度の排出</b>	2年度目0 単位	の排出量原	3 年度 単位	目の抽	非出量	』原
量原単位によるエネル	年度ごとの 排出量原単										
ギー起源二 酸化炭素の 排出の状況	11 111.44	4 年度目の 単位	排出量原	5年度目の 単位	の排出量原	目標とした の排出量原	た最終年度 『単位	原 単	位肖	<b>小減</b>	率
排 田 の 払 况										%	
	こおけるエネル 竣化炭素の排  する説明										
	60 M.		使用台数		/>	害	合				
対象自動車	総数 うち電気自	動車			台台		%	1			
の使用状況	うち天然だ				台		%	-			
		リッド自動			台		%	]			
	うちディー	ゼル代替LP	ガス自動車		台		%				

	年度ごとの 排出量の推	基準排出量の	合計量	計画の初年 量の合計量	度の排出	2年度目の排 合計量	出量の	3年度 合計量	目の排	出量の
			$tCO_2$		tCO <sub>2</sub>		$tCO_2$			$tCO_2$
使用してい	移山里の推	4年度目の排 合計量	出量の	5年度目の 合計量	排出量の	目標とした最の排出量の合言	終年度 †量	削	減	率
る全ての自 動車におけ			$tCO_2$		tCO <sub>2</sub>		$tCO_2$			%
るエネルギー起源二		原単位の指標	の種類			排出量原単位	の単位			
酸化炭素の排出に関す		基準年度の排 単位	出量原	計画の初年 量原単位	度の排出	2年度目の排 単位	出量原	3 年度 単位	目の排	出量原
る状況等	年度ごとの排出量原単									
	位の推移	4年度目の排 単位	出量原	5年度目の 単位	排出量原	目標とした最 の排出量原単位		原 単	位削	減率
										%

(第4面) 京浜急行電鉄株式会社

5 排出量の削減の目標を達成するための措置の内容

3 排四里少	刊機の日保を建成するための相直の内存 計画	実施の結果
	○推進体制の整備(1101) 計画推進責任者および推 進責任者、技術管理者を選任し、推進体制を構築する	
工 担 炊 に	○主要設備等の保全管理(1103) 設備機器の適切な 運用と維持保全を実施する	○主要設備等の保全管理(1103) 設備機器の適切な 運用と維持保全を毎月実施した。
工場等における排出		○エネルギー使用量の管理 (1105) 各事業所においてエネルギー使用量を毎月把握した。
減の目標を成めた。	○照明設備対策(1401) 順次LED照明器具の導入 を実施する	<ul><li>○照明設備対策(1401) 順次LED照明器具の導入 を実施した。</li><li>久里浜京急ビル:95台(2019年度)</li></ul>
具体的な 措置 (規則第		X EXXXIII CON CONTROL (SOLO )
2 条 第 1 号 又 は 第 2 号 該 当		
の 事 業者)		
対象目動車の排出	計画	
量の削減の目標を		
達成する		
体的は規則		
第2条第		
3号該当 の事業 者)		
	計画	実施の結果
再生可能エネル		
ギー等の		
他の具体 的な措置		
HJ/よ疳里		
1		

(第4面) 別紙1

(第4面)別	計画	実施の結果
工お出減をる具措(2号2の者場け量の達た体置規条又号事)等るの目成め的 則第は該業に排削標すのな 第1第当	計画	実施の結果

 (第4面) 別紙2

 計画
 実施の結果

対車量の達た体置第3の者象のの目成め的(2号事)自排削標すのな規条該業動出減をる具措則第当

(第4面) 別紙3 計画 実施の結果 再生アル ギーキー ギーキー リールのの は一般のな措置

(第5面) 京浜急行電鉄株式会社

6 地域の地球温暖化対策の推進への貢献

計画	実施の結果						
○森林の保全	○森林の保全						
小網代近郊緑地保全区域では、神奈川県の指定に同意し、所	小網代近郊緑地保全区域では、神奈川県の指定に同意し、所有						
有する約10ヘクタールを自主保存することで、地域の自然環境	する約10ヘクタールを自主保存することで、地域の自然環境の						
の保全に貢献している。	保全に貢献した。(貢献活動実施継続中)						

7 温室効果ガスの排出の量の削減に寄与する製品の開発その他の温室効果ガスの排出の量の削減等に関する取組

計画	実施の結果
○環境への取り組み	○環境への取り組み
鉄道事業では、電力回生ブレーキ車両導入の推進、車両・踏	・鉄道事業では省エネルギー性能に優れた新造車両の導入を推
切道・車庫線へのLED照明導入の推進等、羽田空港国際線	進しており、2010年には従来の抵抗制御車両を廃止し、全車両
ターミナル駅への太陽光パネルの導入等を実施する。	が「電力回生ブレーキ」を備えた省エネ車両へ切り替えた。更
	に、1990年からは、「界磁チョッパ制御方式」よりさらに電力
	回生効率を高めた「VVVF制御方式」を採用。電力量の削減効果
	は約30%に及んでいる。
	実績(2021年度) 界磁チョッパ制御車16両/WWF制御車782
	両 (導入率約98%)
	・駅および車両照明用設備のLED化
	実績(2021年度) ①駅…30%完了 ②車両…63%完了
	・羽田空港国際線ターミナル駅への太陽光パネルの導入
	実績(2019~2021年度) 2010年に設置した太陽光パネルを
	2019~2021年度においても管理・活用した。
	・再生可能エネルギーへの置き換え
	実績(2021年度) ① 京急線19駅(東神奈川~金沢八景、逗
	子線全駅) の業務用電力量 ② グループ12社が入居する京急グ
	ループ本社の電力

8 エネルギー管理指定工場等の一覧表

指定 の区 分	工場等の名称	工場等の所在地	日本標準産業 分類における 細分類番号	実施する事業の名称

9 エネルギー管理指定工場等以外の工場等の一覧表(基準年度における原油換算エネルギー使用量が1,000k1以上のものに限る。)

工場等の名称	工場等の所在地	日本標準産業 分類における 細分類番号	実施する事業の名称	基準年度における原油換算エネルギー使用量(k1)

京浜急行電鉄株式会社

(個別票)

10 エネルギー管理指定工場等ごとのエネルギー起源二酸化炭素の排出の状況、排出量の削減の目標及び当該目標を達成するための措置の内容

(1)	工場等の名	称笙
\ <b>T</b> /		N1, 44

<u> 1/</u>	1.5//	0.11.	//H	1.1 .1										
工	場	等	の	名	称									
エ	場	等 の	所	在	地									
工	場	等	の	規	模	建領べ面	& 物 @ j積	の延					m <sup>2</sup>	
						部		署		名				
連		終	,		先	電	話		番	号	-	-		
Æ		/l'1=	•		76	F	A	Χ	番	号	—	-		
						電子	· メ ー	ルラ	アドル	ノス				

# (2) 工場等のエネルギー起源二酸化炭素の排出の状況及び削減の目標

		基	準	排	出量	計画の初生	F度 <i>0</i> 量	)排出	2年度目	の∄	岸出量	3 年	度目	の排	出量
工場等におけるエネルギー 起源二酸化炭	年度ごとの排	(基)			tCO <sub>2</sub>	(基)		$tCO_2$	(基)		$tCO_2$	(基)			tCO <sub>2</sub>
素の排出の状 況等	出量の推移	4 年	度	』の	排出量	5年度目	の排	出量	目標とした の排出量	を最終	終年度	削	浉	苋	幸
		(基)			tCO <sub>2</sub>	(基)		$tCO_2$	(基)		$tCO_2$	(基)			%
	原単位の指標 の種類					排出量原草	単位 ∅	)単位							
工場等におけ る排出量原単		基準 単位	軍 (	の排	出量原	計画の初 <sup>年</sup> 量原単位	∓度0	が排出	2年度目の 単位	り排と	出量原	3年 単位	度目ℓ	)排	出量原
位によるエネ ルギー起源二	年度ごとの排 出量原単位の					(基)			(基)			(基)			
酸化炭素の排出の状況等	推移	4 年 単位	度目	の排	出量原	5年度目6 単位	の排出	出量原	目標とした の排出量原			原単	单 位	削	減率
		(基)				(基)			(基)			(基)			%
計画期間内にギー起源二酸の状況に関す	おけるエネル 化炭素の排出 る説明														

(第8面) 京浜急行電鉄株式会社 結果8面個別票

(3) 工場等の排出量の削減の目標を達成するための措置の内容

		対策の区分	対策の内容	実施状	未実施の理由
	番号	名称	対象が行行	況	<b>水</b> 天旭 0
1				□実施	
_				□未実施	
2				□実施	
				□未実施	
3				□実施	
				□未実施	
4				□実施	
_				□未実施	
5				□実施	
				□未実施	
6				□実施	
				□未実施	
7				□実施	
Ľ				□未実施	
8				□実施	
				□未実施	
9				□実施	
Ľ				□未実施	
10				□実施	
				□未実施	
11				□実施	
				□未実施	
12				□実施	
				□未実施	
13				□実施	
Ĺ				□未実施	
14				□実施	
				□未実施	
15				□実施	
1				□未実施	

### 備考 1 ※印の欄は、記入しないでください。

- 2 □のある欄には、該当する□内にレ印又は■を付してください。
- 3 第1面の1の「主たる事業の業種」の欄には統計法第28条の規定に基づき、産業に関する分類を定める件(平成25年 総務省告示第405号)に定める日本標準産業分類の大分類及び中分類を、第6面の8及び9の「日本標準産業分類にお ける細分類番号」の欄には日本標準産業分類の細分類番号を記入してください。
- 4 第4面の5の欄には、排出量の削減の目標を達成するための事業者の対策の計画及び実施の結果を具体的に記載することとし、記載しきれないときは、この様式の例により作成した書面に記載して、その書面を添付してください。
- 5 第5面の6の欄には、中小企業への省エネルギー技術の普及・移転、環境教育の実施、森林の保全・緑化の推進などの分野をはじめとする具体的な取組の計画及び実施の結果を記載してください。
- 6 規則第2条第1号又は第2号該当の事業者にあっては、総括票及び個別票を作成した工場等ごとに、最終年度における排出量の算定の根拠を明らかにする書類を添付してください。また、個別票には、使用している設備の管理状況及び排出量の削減の目標を達成するための具体的な措置の内容を確認できる書類を添付してください。
- 7 規則第2条第3号該当の事業者にあっては、最終年度における排出量の算定の根拠を明らかにする書類、使用している自動車の管理状況及び排出量の削減の目標を達成するための具体的な措置の内容が確認できる書類を添付してください。

# 別紙1(エネルギー起源二酸化炭素排出量計算表) 2022年度提出用(2021年度実績値) Ver.2

事業者名: 京浜急行電鉄株式会社 対象: 全県(総括)

原油換算工	ネルギー使用	量(kL)	7,716	二酸化炭素排出合 (有効数字3桁処		基礎 14,100	<u>調整後</u> 14,000
	排出量原単位の指	標		排出量原単位	(tCO2/)		
名称	量	単	位	基礎	調整後		

	エネルギー				I	ネル:	ギー使	用量	販売され	たエネ	ルギー量	熱量A	I	ネルキ	一起	源二酸化	炭素
	エネル	ギーの	)種類		жь I <del>-1-</del> .	単	単位	熱量A	数值	単	熱量B	一熱量	CO2排	出係数	単	CO2排出	量(tCO2)
	• • •	•			数値A	位	発熱	(GJ)	В	位	(GJ)	B (※2)	基礎	調整後	位	基礎	調整後
	原油(コン	デンヤ・		<b>}</b> ( )	0	kL	38.2	0	0	kL	0		0.0187	0.0187	tC/GJ	0	0
	原油のうち				0	kL	35.3	0	0	kL	0	_	0.0184	0.0184	tC/GJ	0	0
	揮発油(た			u_/	0	kL	34.6	0	0	kL	0	_	0.0183	0.0183	tC/GJ	0	0
	ナフサ	, , , , ,	,		0	kL	33.6	0	0	kL	0	_	0.0182	0.0182	tC/GJ	0	0
	<del>グラブー</del> 灯油				209	kL	36.7	7,670	0	kL	0		0.0185	0.0185	tC/GJ	520	520
	軽油				0	kL	37.7	0	0	kL	0			0.0187	tC/GJ	020	020
	<del>拉加</del> A重油				212	kL	39.1	8,289	0	kL	0	_	0.0189	0.0189	tC/GJ	574	574
	<u>八工畑</u> B•C重油				0	kL	41.9	0,200	0	kL	0	,	0.0195	0.0195	tC/GJ	0	0,4
	石油アスプ	ファルト			0	t	40.9	0	0	t	0		0.0208	0.0208	tC/GJ	0	0
	石油コーク				0	t	29.9	0	0	t	0		0.0254	0.0254	tC/GJ	0	0
			油ガス(	I PG)	58	t	50.8	2,946	0	t	0		0.0161	0.0161	tC/GJ	174	174
燃	石油ガス		炭化水素		0	上 千㎡	44.9	2,340	0	于㎡	0	,	0.0142	0.0142	tC/GJ	0	0
Albert I	可燃性		然ガス(		0	t	54.6	0	0	t	0		0.0142	0.0142	tC/GJ	0	0
177	円然性				0	լ 千㎡	43.5	0	0	十㎡	0		0.0133	0.0133	tC/GJ	0	0
		原料炭		ないへ			29.0	0			0		0.0139	0.0139	tC/GJ	0	0
		一般於			0	t		-	0	t			0.0245	0.0245			0
	石炭				0	t	25.7	0	0	t	0				tC/GJ	0	_
		無煙炭	٠		0	t	26.9	0	0	t	0		0.0255	0.0255	tC/GJ	0	0
	石炭コーク				0	t	29.4	0	0	t	0		0.0294	0.0294	tC/GJ	0	0
	コールター	-			0	t ~ 3	37.3	0	0	t - 3	0		0.0209	0.0209	tC/GJ	0	0
	コークス炉	コカス			0	千㎡	21.1	0	0	干㎡	0		0.0110	0.0110	tC/GJ	0	0
	高炉ガス				0	千㎡	3.41	0	0		0		0.0263	0.0263	tC/GJ	0	0
	転炉ガス				0			0	0	干㎡	0		0.0384	0.0384	tC/GJ	0	0
	都市ガス				1,111	Ŧm	45.0	49,995	0	千㎡	0	49,995	_	0.0136	tC/GJ	2,493	2,493
	<b>+</b> * <b>-</b> +			小計				68,900			0	68,900			tCO2	3,761	3,761
	産業用蒸		-		0	GJ	1.02	0	0	GJ	0			0.060	tCO2	0	0
**	産業用以	外の蒸	気		3,919	GJ	1.36	5,330	0	GJ	0			0.057	tCO2	223	223
	温水				0	GJ	1.36	0	0	GJ	0			0.057	tCO2	0	0
	冷水				7,281		1.36	9,902	0	GJ	0	,	0.057	0.057	/G.I	415	415
	+0000 <del>*</del> =	<b>3</b> 4 - 1		小計				15,232	0		0	11,200			tCO2	638	638
	A0269_東京 ナジーパーI		メニュー	昼間	19,527	千kWh	9.97	194,684	0	千kWh		194,684	0.000447	0.000443	/kWh	8,729	8,650
	(株)		G	夜間	0	千kWh	9.28	0	0	千kWh		0	0.000447	0.000443	tCO2 /kWh	0	0
	A0050_ENE		メニュー	昼間	2,030	千kWh	9.97	20,239	0	千kWh		20,239	0.000461	0.000480	tCO2 /kWh	936	974
	(旧JXTGエ ギー(株))	・イル	С	夜間	0	千kWh	9.28	0	0	千kWh		0	0.000461	0.000480	tCO2 /kWh	0	0
	電気事業者	タた澤	メニュー	昼間	0		9.97	0	0	千kWh		0			tCO2		
	电双手不甘 択	10 6.65	を選択	夜間	0		9.28	0	0	于kWh		0			/kWh tCO2		
		A. C. 199		昼間			-								/kWh tCO2		
_	電気事業者 択	名を選	メニュー を選択		0		9.97	0		千kWh	/_	0			/kWh tCO2		
電	אל		2,25,1/	夜間	0		9.28	0	0	千kWh	/_	0			/kWh tCO2		
凤	電気事業者	名を選	メニュー	昼間	0		9.97	0	0	千kWh		0			/kWh		
	択		を選択	夜間	0	千kWh	9.28	0	0	千kWh		0			tCO2 /kWh		
	電気事業者	名を選	メニュー	昼間	0	千kWh	9.97	0		千kWh		0			tCO2 /kWh		
	択		を選択	夜間	0		9.28	0		千kWh		0			tCO2		
	<b>全年</b> 本	夕太澤	<b>J</b> – –	昼間	0		9.97	0		于kWh		0			/kWh tCO2		
	電気事業者 択	白で選	メニュー を選択	夜間	0		9.28	0				0			/kWh tCO2		
		LETIN					-			千kWh		_	0.000000	0.000000	/kWh tCO2		
	その他	工記以:	外の買電		0		9.76	0		千kWh		0	0.000000	0.000000	/kWh	0	0
				小計	21,557	于kWh		214,923		千kWh						9,665	9,624
	•	合 計						299,055 業者が維持								14,064	14,023

<sup>※1</sup> 一般送配電事業者、送電事業者及び特定送配電事業者が維持し、及び運用する電線路を介して供給を受ける電気以外の電気及び自己託送制度を用いて供給を受ける電気で使用した電力がある場合に記入してください。

<sup>※2 「</sup>熱」に該当するエネルギー種(産業用蒸気等)については、(数値A)-(数値B)

# 別紙1(エネルギー起源二酸化炭素排出量計算表) 2022年度提出用(2021年度実績値) Ver.2

事業者名: 京浜急行電鉄株式会社 対象: 横浜・川崎(総括)

原油換算工	ネルギー使用	量(kL)	5,047	二酸化炭素排出合 (有効数字3桁処		<u>基礎</u> 8,920	<u>調整後</u> 8,870
	排出量原単位の指	標		排出量原単位	(tCO2/)		
名称	量	単	位	基礎	調整後		

	エネルギーの種類			I	ネル	ギー使	用量	販売され	たエネ	ルギー量	熱量A	I	ネルキ	一起	源二酸化	炭素	
	エネル	ギーの	)種類		₩店^	単	単位	熱量A	数值	単	熱量B	一熱量	CO2排	出係数	単	CO2排出	量(tCO2)
					数値A	位	発熱 量	(GJ)	В	位	/A I	( <b>※</b> 2)	基礎	調整後	位	基礎	調整後
	原油(コン	デンセ・	一トを除	<b>₹く</b> 。)	0	kL	38.2	0	0	kL	0		0.0187	0.0187	tC/GJ	0	0
	原油のうち	コンデン	/セート(1	NGL)	0	kL	35.3	0	0	kL	0	0	0.0184	0.0184	tC/GJ	0	0
	揮発油(ガ	シリン	)		0	kL	34.6	0	0	kL	0	0	0.0183	0.0183	tC/GJ	0	0
	ナフサ		-		0	kL	33.6	0	0	kL	0	0	0.0182	0.0182	tC/GJ	0	0
	灯油				0	kL	36.7	0	0	kL	0	0	0.0185	0.0185	tC/GJ	0	0
	軽油				0	kL	37.7	0	0	kL	0	0	0.0187	0.0187	tC/GJ	0	0
	A重油				0	kL	39.1	0	0	kL	0	0	0.0189	0.0189	tC/GJ	0	0
	B∙C重油				0	kL	41.9	0	0	kL	0	0	0.0195	0.0195	tC/GJ	0	0
	石油アスプ	ファルト	•		0	t	40.9	0	0	t	0	0	0.0208	0.0208	tC/GJ	0	0
	石油コーク	7ス			0	t	29.9	0	0	t	0	0	0.0254	0.0254	tC/GJ	0	0
	T \L \L \L \	液化石	油ガス()	LPG)	0	t	50.8	0	0	t	0	0	0.0161	0.0161	tC/GJ	0	0
燃	石油ガス	石油系	炭化水素	長ガス	0	千㎡	44.9	0	0	千㎡	0	0	0.0142	0.0142	tC/GJ	0	0
料			<u>然</u> ガス(I		0	t	54.6	0	0	t	0	0	0.0135	0.0135	tC/GJ	0	0
	天然ガス	その他ロ	丁燃性天然	然ガス	0	千㎡	43.5	0	0	千㎡	0	0	0.0139	0.0139	tC/GJ	0	0
		原料炭	<del>!</del>		0	t	29.0	0	0	t	0	0	0.0245	0.0245	tC/GJ	0	0
	石炭	一般於	ŧ		0	t	25.7	0	0	t	0	0	0.0247	0.0247	tC/GJ	0	0
		無煙炭	ŧ		0	t	26.9	0	0	t	0	0	0.0255	0.0255	tC/GJ	0	0
	石炭コーク	7ス			0	t	29.4	0	0	t	0	0	0.0294	0.0294	tC/GJ	0	0
	コールター	-ル			0	t	37.3	0	0	t	0	0	0.0209	0.0209	tC/GJ	0	0
	コークス炉	ガス			0	千㎡	21.1	0	0	千㎡	0	0	0.0110	0.0110	tC/GJ	0	0
	高炉ガス				0	千㎡	3.41	0	0	千㎡	0	0	0.0263	0.0263	tC/GJ	0	0
	転炉ガス				0	千㎡	8.41	0	0		0	0	0.0384	0.0384	tC/GJ	0	0
	都市ガス				871	千㎡	45.0	39,195	0	千㎡	0	39,195	0.0136	0.0136	tC/GJ	1,955	1,955
				小計				39,195			0	39,195				1,955	1,955
	産業用蒸	気			0	GJ	1.02	0	0	GJ	0	0	0.060	0.060	tCO2	0	0
	産業用以	外の蒸	気		3,919	GJ	1.36	5,330	0	GJ	0	3,919	0.057	0.057	tCO2 /GJ	223	223
熱	温水				0	GJ	1.36	0	0	GJ	0	0	0.057	0.057	ťCÖ2 /GJ	0	0
	冷水				7,281	GJ	1.36	9,902	0	GJ	0	7,281	0.057	0.057	tCO2	415	415
				小計	11,200	GJ		15,232	0	GJ	0	11,200				638	638
	A0269_東京		メニュー	昼間	14,162	千kWh	9.97	141,195	0	千kWh		141,195	0.000447	0.000443	tCO2 /kWh	6,330	6,274
	ナジーパート (株)	・ナー	G	夜間	0	千kWh	9.28	0	0	千kWh		0	0.000447	0.000443	tCO2 /kWh	0	0
	A0050_ENEC		メニュー	昼間	0	千kWh		0	0			0	0.000461	0.000480	tCO2	0	0
	(旧JXTGエ ギー(株))	ネル	C	夜間	0		9.28	0	0	于kWh		0	0.000461	0.000480	/kWh tCO2	0	0
		2 A A		昼間	0		9.97	0	0	于kWh		0			/kWh tCO2	H	
	電気事業者: 択	名を選	メニュー を選択	_								0			/kWh tCO2		
				夜間	0		9.28	0	0	千kWh	$\overline{}$				/kWh tCO2		
	電気事業者:	名を選	メニュー を選択	昼間	0		9.97	0	0	千kWh		0			/kWh tCO2		
電	択 ————		で選択	夜間	0	-		0	0	千kWh	/_	0			/kWh		
灵	電気事業者	名を選	メニュー	昼間	0	千kWh	9.97	0	0	千kWh		0			tCO2 /kWh		
	択		を選択	夜間	0	千kWh	9.28	0	0	千kWh		0			tCO2 /kWh		
	電気事業者:	名を選	メニュー	昼間	0	千kWh	9.97	0		千kWh	$\backslash$	0			tCO2 /kWh		
	択	-· <b>-</b>	を選択	夜間	0	千kWh	9.28	0		千kWh		0			tCO2 /kWh		
	電気事業者	タを選	メニュー	昼間	0		9.97	0		于kWh		0			tCO2		
	表现 <del>事</del> 来有· 択	н с <b>2</b> 5.	を選択	夜間	0	+kWh		0		于kWh		0			/kWh tCO2		
	その他	上記以	外の買電		0		9.76	0				0	0.000000	0.000000	/kWh tCO2	0	0
	くの他	工心以			_			•		千kWh		0	3.000000	0.000000	/kWh	, ,	
		<b>∧</b> =1		小門	14,162	于kWh		141,195		千kWh						6,330	6,274
		合 計		드 = 제	<b>* * * * * * *</b>			195,622 業者が維持			7 = 15 = 1	<b>を介して</b>	11 44 + -	31175		8,923	8,867

<sup>※1</sup> 一般送配電事業者、送電事業者及び特定送配電事業者が維持し、及び運用する電線路を介して供給を受ける電気以外の電気及び自己託 送制度を用いて供給を受ける電気で使用した電力がある場合に記入してください。

<sup>※2 「</sup>熱」に該当するエネルギー種(産業用蒸気等)については、(数値A)-(数値B)

# 別紙1(エネルギー起源二酸化炭素排出量計算表) 2022年度提出用(2021年度実績値) Ver.2

事業者名: 京浜急行電鉄株式会社 対象: 横浜・川崎を除く県域(総括)

原油換算工	ネルギー使用	量(kL)	2,669	二酸化炭素排出合 (有効数字3桁処		<u>基礎</u> 5,140	<u>調整後</u> 5,160
	排出量原単位の指	標		排出量原単位	(tCO2/)		
名称	量	単	位	基礎	調整後		

	エネルギーの			エ	ネル	ギー使	用量	販売され	たエネ	ルギー量	熱量A	I	ネルキ	一起	源二酸化	炭素	
	エネル	ギーの	の種類		344. I—I a	単	単位	熱量A	数值	単	熱量B	- 熱量	CO2排	出係数	単	CO2排出	量(tCO2)
					数値A	位	発熱	(GJ)	В	位	(GJ)	B (※2)	基礎	調整後	位	基礎	調整後
	原油(コン	デンセ	一トを防	<b>ὲ</b> ⟨。 )	0	kL	38.2	0	0	kL	0		0.0187	0.0187	tC/GJ	0	0
	原油のうち				0	kL	35.3	0	0	kL	0	_	0.0184	0.0184	tC/GJ	0	0
	揮発油(た			,	0	kL	34.6	0	0	kL	0	_	0.0183	0.0183	tC/GJ	0	0
	ナフサ		<u>,                                      </u>		0	kL	33.6	0	0	kL	0	_	0.0182	0.0182	tC/GJ	0	0
	灯油				209	kL	36.7	7,670	0	kL	0		0.0185	0.0185	tC/GJ	520	520
	軽油				0	kL	37.7	0	0	kL	0			0.0187	tC/GJ	020	020
	<del>拉加</del> A重油				212	kL	39.1	8,289	0	kL	0		0.0189	0.0189	tC/GJ	574	574
	<del>八重加</del> B•C重油				0	kL	41.9	0,203	0	kL	0		0.0195	0.0195	tC/GJ	0,4	0,4
	石油アス	ファルト			0	t	40.9	0	0	t	0	_	0.0208	0.0208	tC/GJ	0	0
	石油コーク				0	t	29.9	0	0	t	0	_	0.0254	0.0254	tC/GJ	0	0
			油ガス(	I DC)	58	t	50.8	2,946	0	t	0		0.0161	0.0161	tC/GJ	174	174
燃	石油ガス		炭化水素			十㎡	44.9	2,940	0	于㎡	0	· ·	0.0142	0.0142	tC/GJ	0	0
料			然ガス(		0		54.6	0	0			_	0.0142	0.0142		0	0
ተተ	可燃性 天然ガス					t 千㎡				t Tm³	0				tC/GJ		
				公ハへ	0		43.5	0	0	千㎡	0		0.0139	0.0139	tC/GJ	0	0
		原料炭			0	t	29.0	0	0	t	0	·	0.0245	0.0245	tC/GJ	0	0
	石炭	一般炭			0	t	25.7	0	0	t	0		0.0247	0.0247	tC/GJ	0	0
		無煙炭	₹		0	t	26.9	0	0	t	0	_	0.0255	0.0255	tC/GJ	0	0
	石炭コーク				0	t	29.4	0	0	t	0	_	0.0294	0.0294	tC/GJ	0	0
	コールター				0	t	37.3	0	0	t	0		0.0209	0.0209	tC/GJ	0	0
	コークス炉	カス			0	千㎡	21.1	0	0	千㎡	0	_	0.0110	0.0110	tC/GJ	0	0
	高炉ガス				0	千㎡	3.41	0	0		0		0.0263	0.0263	tC/GJ	0	0
	転炉ガス				0			0	0	千㎡	0	_	0.0384	0.0384	tC/GJ	0	0
	都市ガス				240	千㎡	45.0	10,800	0	千㎡	0	10,800	_	0.0136	tC/GJ	539	539
				小計				29,705			0	29,705				1,807	1,807
	産業用蒸				0	GJ	1.02	0	0	GJ	0			0.060	tCO2 tCO2	0	0
	産業用以	外の蒸	気		0	GJ	1.36	0	0	GJ	0			0.057	/G.I	0	0
熱	温水				0	GJ	1.36	0	0	GJ	0			0.057	tCO2 tCO2	0	0
	冷水				0	GJ	1.36	0	0	GJ	0	0	0.057	0.057	/G.I	0	0
				小計	0	GJ		0	0	GJ	0	0				0	0
	A0269_東京  ナジーパー		メニュー	昼間	5,365	千kWh	9.97	53,489	0	千kWh		53,489	0.000447	0.000443	tCO2 /kWh	2,398	2,377
	/ シーハー   (株)	(۱	G	夜間	0	千kWh	9.28	0	0	千kWh		0	0.000447	0.000443	tCO2 /kWh	0	0
	A0050_ENE		メニュー	昼間	2,030	于kWh	9.97	20,239	0	于kWh		20,239	0.000461	0.000480	tCO2	936	974
	(旧JXTGエ  ギー(株))	ネル	c	夜間	0		9.28	0	0			· ·	0.000461	0.000480	/kWh tCO2	0	0
				昼間	0		9.97	0	0			0			/kWh tCO2	— <u> </u>	$\overline{}$
	電気事業者  択	名を選	メニュー を選択							千kWh					/kWh tCO2		
	, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,		CZI	夜間	0	千kWh		0	0	千kWh		0			/kWh tCO2		
	電気事業者	名を選	メニュー	昼間	0	千kWh	9.97	0	0	千kWh		0			/kWh		
電	択		を選択	夜間	0	千kWh	9.28	0	0	千kWh		0			tCO2 /kWh		
気	電気事業者	名を選	メニュー	昼間	0	千kWh	9.97	0	0	千kWh		0			tCO2 /kWh		
	択		を選択	夜間	0	千kWh	9.28	0	0	于kWh		0			tCO2		
	電気事業者	クた型	メニュー	昼間	0		9.97	0		于kWh		0			/kWh tCO2		
	电ス争未行  択	つで送	<del>/</del>   を選択	夜間			9.28	0				0			/kWh tCO2		
					0			_		千kWh					/kWh tCO2		
	電気事業者	名を選	メニュー を選択	昼間	0		9.97	0	//	千kWh	//	0			/kWh tCO2		
	択			夜間	0		9.28	0	/_	千kWh	/	0			/kWh		
	その他	上記以	外の買電	<b>(</b> ※1)	0	千kWh	9.76	0		千kWh		0	0.000000	0.000000	tCO2 /kWh	0	0
				小計	7,395	千kWh		73,728		千kWh						3,334	3,351
		合 計						103,433								5,141	5,158
				重車型	<b>タカバ</b> 性	· 定详i	記重車	業者が維持	75.7 15	軍田は	て悪絶い	なた介して	出終を受	シース電	気以	1	*

<sup>※1</sup> 一般送配電事業者、送電事業者及び特定送配電事業者が維持し、及び運用する電線路を介して供給を受ける電気以外の電気及び自己託送制度を用いて供給を受ける電気で使用した電力がある場合に記入してください。

<sup>※2 「</sup>熱」に該当するエネルギー種(産業用蒸気等)については、(数値A)ー(数値B)

### 事業活動温暖化対策計画書(特定大規模事業者用)

2022 年 7 月 31 日

神奈川県知事殿

郵便番号 220 - 8625

住 所

横浜市西区高島1丁目2番8号

group. jp

氏

京浜急行電鉄株式会社 取締役社長 川俣 幸宏

神奈川県地球温暖化対策推進条例第11条第1項の規定により、次のとおり提出します。

#### 1 事業者の名称等

名称及ては、	音の氏名又は 及び法人にあっ 代表者の氏名	京涉	兵急行電	意鉄株	式会社	取締	辞役社	長	川俣	幸勿	<u> </u>						
	での住所又は い事務所の所在	横浜	兵市西区	医高島	;1丁目2	番8号											計画 対象
					の原油換 神奈川県										7, 716	kl	
					当まれる とい								原油換算 エネルギー	うち	2, 669	kl	0
	式規模事業者の				者のうち が1,500k								使用量の 合計量			kl	
区分			該当の			111/1	_v/ <del>-y</del> -	未但	(水丸	י נאני	· 不牙	7 7		うち		kl	
対象自動車を100台以上使用する事業者(規則第2条第 使用 3号該当の事業者) 台数																台	
		• 1.5	•	,,,,,,					うち		台						
主 たる事業												技がスま、	サービス業 業 娯楽業 頭されないも				
連	絡 先		署 話 る A X メールア	番号	名 <mark>経営領</mark> 号 045 号 045 邓 mizuk	- 2 - 2	225 225	_ 9 _ 9	9242 9395	grot	ıp. jp	)					
															場合の連絡先		Ī
<b>※</b> 受				※ 特							音	『署名	: PM事業本部	ß P	<u>レマネジメン</u> M第1部	<u> </u>	
付				記							雪目	<b>電話番</b>	号: 045-307		<u>1</u>		
欄				欄									<u>ールアドレン chi.miyazak</u>		w@keikyu-		

(第2面) 京浜急行電鉄株式会社

#### 2 計画期間

2022 年度 ~ 2023 年度

#### 3 事業活動に伴う温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針

#### 【京急グループ環境基本方針】

私たちは、あらゆる事業活動や社会貢献活動を通じて、地球環境の保全と環境負荷の低減に努め、持続的発展が可能な社会の形成に貢献します。

#### 【TCFDに基づく情報開示と「京急グループ2050年カーボンニュートラル」の策定】

京急電鉄では、ESGへの取り組みを経営のベースと位置付け、事業活動により発生する温室効果ガスの排出抑制に向け取り組みを進めている。そして、さらなる持続可能な社会の実現を目指し、2022年6月に気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)の提言に基づく情報の開示をはじめ、長期環境目標として「京急グループ2050年カーボンニュートラル」を策定した。この長期環境目標の達成に向けた中間目標として、温室効果ガス排出量を「2030年度末において2019年度比30%削減」と設定し、「省エネ」・「創エネ」・「再エネ」といった各事業における戦略を検討し、グループ全体で目標達成に向け取り組みを進めていく。

今後、上記に基づく対応として、県内における事業活動に伴う温室効果ガスの排出削減に向け、2022年度~2023年度の2年間においては、省エネによるエネルギー使用量の総量を削減する活動に加え、地産地消の 再エネ電力の採用や、環境価値証書・非化石証書をはじめとするクレジットの活用なども視野に入れ、県内の事業所から排出される温室効果ガス排出量の削減に取り組む。

<温室効果ガスを効果的に削減していくための取組についての基本的な考え方>

- ・既存の事業所でのLED化を計画的に推進する。
- ・感染症対策と省エネの両立を図るため、最新の全熱交換器の導入エリアを拡大する。
- ・空調換気設備の計画的な更新・整備を実施する。
- ・地域の地球温暖化対策の推進への貢献としては、植物の植樹、森の自然環境の保全を実施しており、今後も継続していく。

(第3面) 京浜急行電鉄株式会社

4 排出量の削減の目標等(規則第2条第1号又は第2号該当の事業者)

排出量の削り	或の目標等 (規)	則弗2条弗1	<b>号</b> 又は第	2 号談	当の事ま	<b>美石)</b>			
	基 準 年 度	(	2021		左座)				
県内に設置し ている全ての 工場等におけ る排出量の削	基準排出量の合計量	(基) (調)	年度~ 5,140 5,160	tCO <sub>2</sub>	年度)	最終年度にお ける排出量の 合計量	(基)	5, 719 5, 746	tCO <sub>2</sub>
減の目標等	目標削減率	(基)	-11. 3 -11. 4	%					
	原単位の指標 の種類					排出量原単位 の単位			
県内に設置し	基準年度にお ける排出量原 単位	(基)				最終年度にお ける排出量原 単位	(基)		
ている全ての 工場等におけ る排出量原単 位による排出	目標削減率	(基)		%					
量の削減の目 標等	生産数量又は建物延床を値以外の値にではではではではでは、その理由								
排出量の削減 の目標の設定 に関する説明	を目に今新今時間に、①コニー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	事業所 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	を影しる手や一ン達の今量備な把響が減考度テ使ニ産・主期増の更握に、少方、レ用ュ計・取、た保新・なは大保会・取りでは、一個では、ののでは、一個では、これでは、一個では、これでは、一個では、これでは、これでは、	最事 各 型ク増ラ基 次と、 運環 設 ロよがり シート ストール マー・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス	(②LEI をの変化する の利用者だった。 でも在席された。 でも思いままでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	の効率化等により の無明集等の取 が今後3年間で201 ス感染症の影響に ながため、計画により、 高成に向けた中に、 ま成に取り組んでいま 使用量の管理対策	製組みを進めてき 対した。 19年度のレベルは より、すべての エネルギー使用 間を2年間とし、 目標「2030年度 さらなるエネル く予定である。	た。これ まで復す 事業所か 引量も減少 2022年6 末におい	はらの効果とと る見込み。 び通常の業務を いした。 で見した いて2019年度比

	工場等におけ	基準排出量の 合計量	(基)	$tCO_2$	最終年度にお ける排出量の 合計量	(基) (調)	tCO <sub>2</sub>
設置している	る排出量	目標削減率	(基) (調)	%			
全ての工場等 における排出 量の削減の目		原単位の指標 の種類			排出量原単位 の単位		
標等	工場等におけ る排出量原単 位	基準年度にお ける排出量原 単位	(基) (調)		最終年度にお ける排出量原 単位	(基)	
	177	目標削減率	(基)	%	, ,	(4-3)	

(第4面) 京浜急行電鉄株式会社 5 排出量の削減の目標等(規則第2条第3号該当の事業者) 年度 基準年度 県内で使用し ( 年度~ 年度) ている全ての 最終年度にお 対象自動車の基準排出量の  $tCO_2$  $tCO_2$ ける排出量の 排出量の削減 合計量 合計量 の目標等 目標削減率 % 原単位の指標 排出量原単位 の種類 の単位 基準年度にお 最終年度にお ける排出量原 ける排出量原 単位 単位 県内で使用し目標削減率 % ている全ての 対象自動車の 排出量原単位 による排出量走行距離又は の削減の目標|輸送量以外の 等 値を原単位の 指標として使 用する場合に あっては、そ の理由 排出量の削減 の目標の設定 に関する説明 使用台数 割合 総数 台 うち電気自動車 台 % 対象自動車の 使用状況 うち天然ガス自動車 台 % うちハイブリッド自動車 台 % うちディーゼル代替LPガス自動車 台 %

	自動車における排出量	基準排出量の 合計量	tCO <sub>2</sub>	最終年度にお ける排出量の 合計量	tCO <sub>2</sub>
使用している		目標削減率	%		
全ての自動車 における排出 量の削減の目 標等	自動車におけ	原単位の指標 の種類		排出量原単位 の単位	
		基準年度にお ける排出量原 単位		最終年度にお ける排出量原 単位	
		目標削減率	%		

排出量の削減の目標を達成するための措置の内容

# <運用対策> ○推進体制の整備(1101) ・計画推進責任者および推進責任者、技術管理者を選任し、推進体制を構築する。 ○主要設備等の保全管理(1103) ・設備機器の適切な運用と日常点検による維持保全を実施する。 ○エネルギー使用量の管理 (1105) ・各事業所において月ごとのエネルギー使用量を把握し、前年との比較、稼働床面積等の影響を 検討し、使用量の適切な管理、削減対策の早期実施、課題発掘等の実施につなげ、改善を図る。 工場等におけ る排出量の削 ○その他 (9999) 減の目標を達 ・購入電力をCO2排出係数の少ないプラン、購入ガスをカーボンニュートラルLNGへ変更することを 成するための 検討 具体的な措置 ・地産地消の再エネ電力の採用や、環境価値証書・非化石証書をはじめとするクレジットの活用などを (規則第2条 検討 第1号又は第 2号該当の事 業者) <設備導入等対策> ○空気調和設備対策(1201) ・空調換気設備の計画的な更新・整備を実施する。 ○換気設備対策(1204) ・感染症対策と省エネの両立を図るため、最新の全熱交換器の導入エリアを拡大する。 ○照明設備対策(1401) ・既存の事業所でのLED化を計画的に推進する。 対象自動車の 排出量の削減 の目標を達成 するための具 体的な措置 (規則第2条 第3号該当の 事業者) <これまでの導入又は導入に向けた検討の状況> <今期の導入予定等> 再生可能エネ ルギー等の導 入その他の具 体的な措置

	(第6面)	京浜急行電鉄株式会社
7	7 地域の地球温暖化対策の推進への貢献	
	<森林保全・緑化推進> ○神奈川県による「小網代近郊緑地保全区域」の指定に同意し、所有する約10haを自主保存・神奈川県に寄付した。また2014年8月には森林内を散策するための木道を一部整備して神奈には常設トイレの設置に伴い神奈川県に敷地を貸与するなど、小網代の森の自然環境保全に打ちます。	川県に寄付、2018年5月
		ᄣᆘᄼᆉᄷᄽᄼᆽᄝᆒᇰᆉᇫᇫᅚᅩᇄᄱ
5	8 温室効果ガスの排出の量の削減に寄与する製品の開発その他の温室効果ガスの排出の量の ○再生可能エネルギー由来の実質C02排出ゼロの電力の採用	削減等に関する取組
	・神奈川県と東京電力EPが提供する、神奈川県営水力発電所から電力を調達するメニュー「わ」を、グループ12社が入居する京急グループ本社に導入することで、本ビルにおける電力とするほか、電気料金の支払いを通じて神奈川県の環境施策の推進にも貢献している。	

(第7面) 京浜急行電鉄株式会社

9 エネルギー管理指定工場等の一覧表

- 11/2	レキー官理指定工場等	ク		
指定 の区 分	工場等の名称	工場等の所在地	日本標準産業 分類における 細分類番号	実施する事業の名称

10 エネルギー管理指定工場等以外の工場等の一覧表 (基準年度における原油換算エネルギー使用量が1,000k1以上の ものに限る。)

工場等の名称	工場等の所在地	日本標準産業 分類における 細分類番号	実施する事業の名称	基準年度における原油換算エネルギー使用量(k1)

(第8面) 京浜急行電鉄株式会社

(個別票)

11 エネルギー管理指定工場ごとの排出量の削減の目標及び当該目標を達成するための措置の内容

# (1) 工場等の名称等

エ	場等の	名 称							
工.	場等の所	在 地							
工.	場等の	規模	建築物の 面積	)延べ			1	m²	
			部	署	名				
津	連絡先	電 話	番	号	_	-			
建		F A	X	番 号	_	-			
			電子メー	・ルア	ドレス				

# (2) 工場等の排出量の削減の目標等

工場等におけ る排出量の削	基準排出量	(基)	$tCO_2$	最終年度にお ける排出量	(基)	tCO <sub>2</sub>
減の目標等	目標削減率	(基)	%			
	原単位の指標 の種類			排出量原単位 の単位		
	基準年度にお ける排出量原 単位	(基)		最終年度にお ける排出量原 単位		
工場等におけ る排出量原単 位による排出	目標削減率	(基)	%			
量の削減の目 標等	生産数量ない。 生産物延に値を関するではでいる。 単位で使用してでは、 場合にの理由 は、その理由					
排出量の削減 の目標の設定 に関する説明						

(第9面) 京浜急行電鉄株式会社 計画9面個別票

(3) 工場等の排出量の削減の目標を達成するための措置の内容

	対策の区分		以外のための相直の自在
	番号	名称	対策の内容
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

# 備考 1 ※印の欄は、記入しないでください。

- 2 □のある欄には、該当する□内にレ印又は■を付してください。
- 3 第1面の1の「主たる事業の業種」の欄には統計法第28条の規定に基づき、産業に関する分類を定める件(平成25年総務省告示第405号)に定める日本標準産業分類の大分類及び中分類を、第7面の9及び10の「日本標準産業分類における細分類番号」の欄には日本標準産業分類の細分類番号を記入してください。
- 4 第2面の3の欄には、計画書を作成するに当たっての基本的な考え方を記入してください。
- 5 第5面の6の欄には、排出量の削減の目標を達成するための事業者の対策を具体的に記載することとし、記載しきれないときは、この様式の例により作成した書面に記載して、その書面を添付してください。
- 6 第6面の7の欄には、中小企業への省エネルギー技術の普及・移転、環境教育の実施、森林の保全・ 緑化の推進などの分野をはじめとする具体的な取組を記載してください。
- 7 規則第2条第1号又は第2号該当の事業者にあっては、総括票及び個別票を作成した工場等ごとに、 排出量の算定の根拠を明らかにする書類を添付してください。また、個別票には、使用している設備の 管理状況及び排出量の削減の目標を達成するための具体的な措置の内容を確認できる書類を添付してく ださい。
- 8 規則第2条第3号該当の事業者にあっては、排出量の算定の根拠を明らかにする書類並びに使用している対象自動車の管理状況及び排出量の削減の目標を達成するための具体的な措置の内容が確認できる 書類を添付してください。